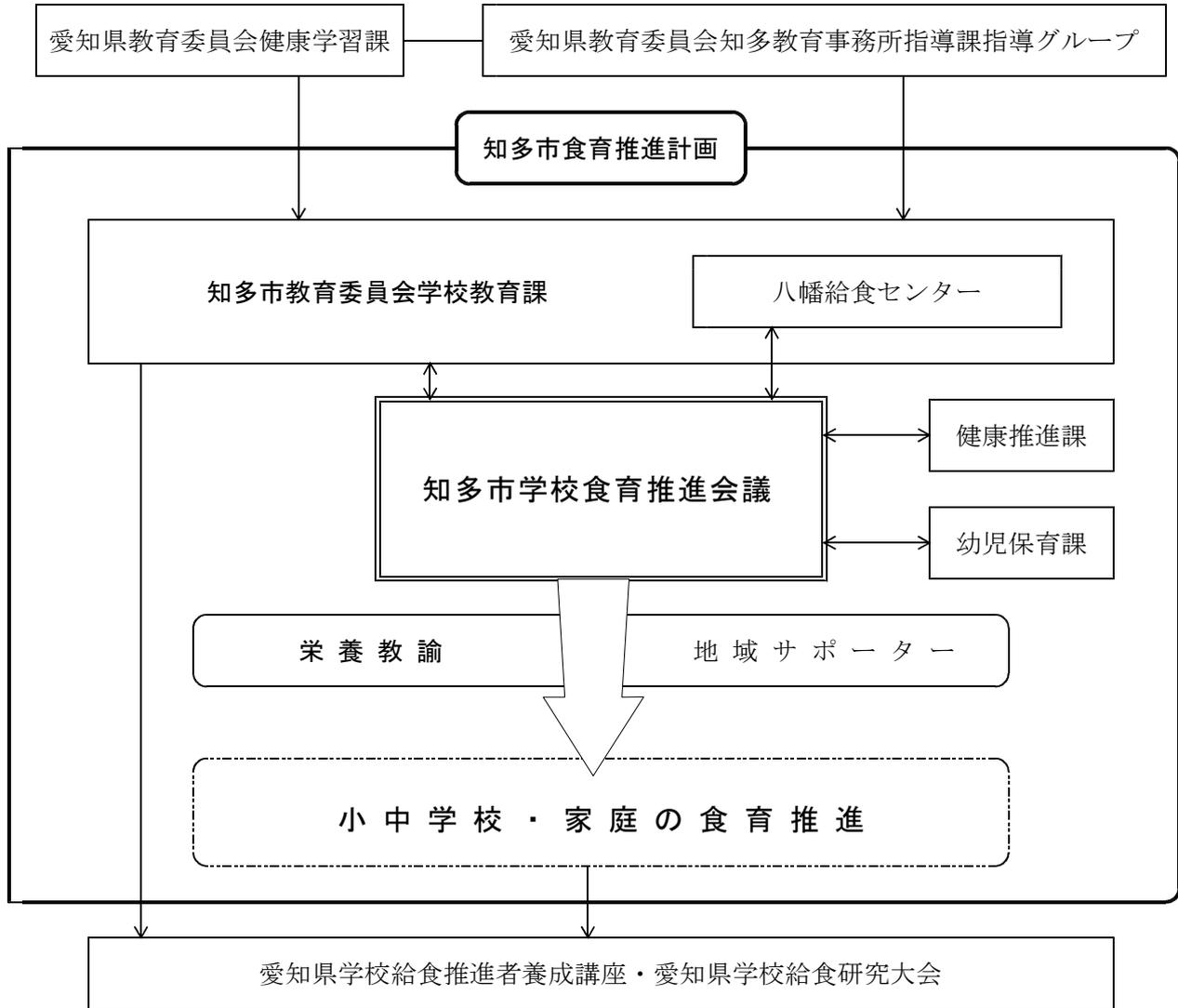


再委託先名	知多市
-------	-----

1. 事業推進の体制



2. 事業内容

テーマ	市町教育委員会を主体とした食育の推進・拡充の取組
	<p>愛知県教育委員会からの再委託を受け、知多市教育委員会では、「市町教育委員会を主体とした食育の推進・拡充の取組」をテーマとして、栄養教諭を中心に学校・家庭・地域が一体となった食育の推進を目指した。</p> <p>1 学校・家庭・地域が一体となった食育推進のための体制の構築</p> <p>知多市は、共同調理場方式をとっており、八幡給食センターでは、市内の10小学校・5中学校の給食約8,500食を調理している。そこに在籍する3名の栄養教諭及び学校栄養職員が、全校の食育指導にもあたっている。</p> <p>また、知多市では、国の「食育推進基本計画」や愛知県の「あいち食育いきいきプラン」に基づいて、平成22年3月に「知多市食育推進計画」を策定している。</p>

本計画では、いきいきとした生活を送ることと「食」とが密接な関係にあることを市民一人一人が再認識し、家庭、学校などの地域が連携・協力して「食育」に関する総合的な取組を計画的に実施する必要があるとしている。そして、学校教育に関わる行動目標及び行動内容を次のとおり掲げている。

【「早寝 早起き 朝ごはん」にかかわって】

- ・「早寝 早起き 朝ごはん」運動の普及啓発をすること
- ・朝食の必要性を啓発すること
- ・家庭で簡単に作れてバランスのよい朝食のメニューを紹介すること
- ・家庭への「食事バランスガイド」の普及に努めること

【学校食育にかかわって】

- ・学校給食を中心とした「食に関する年間指導計画」に基づいて食育の定着を図ること
- ・給食試食会の開催、給食だより及び献立表の家庭への配布により、バランスのよい食生活の習得を図ること
- ・給食だより・食育だより等を配布し、家族と一緒に食事をする大切さについて家庭に啓発すること
- ・給食試食会を実施し、みんなで楽しく食べる体験を通し、食事の意義について保護者に啓発すること

また、関係諸機関が連携し、栄養教諭を中心に小中学校における食育の推進を図るために「知多市学校食育推進会議」を設置した。この会議には、市教育委員会・小中学校教員といった学校関係者だけでなく、市健康推進課及び幼児保育課の栄養士、市PTA連絡協議会母親代表、地域の健康づくり食生活改善協議会の推進員も参加している。児童生徒への食育の啓発をより効果的なものにしていくためには、学校で食育を進めるだけでなく、子どもたちを取り巻く家庭や地域への働きかけも同時に進めていく必要があると考えたからである。

会議は、学校教育課職員と指導主事が中心となって運営し、学校・家庭・地域と栄養教諭との連携を円滑に進められるようにコーディネートすることで、栄養教諭及び学校栄養職員を支援する体制を整えることができた。

2 栄養教諭の専門性を生かした食育指導の機会の模索

本事業を受けて、栄養教諭及び学校栄養職員は、学校給食における食育推進に積極的に取り組むとともに、児童生徒への指導だけでなく、児童生徒に食事を提供する立場にある保護者に対しては食育指導を行う機会を見出していくことにした。

(1) 食育巡回指導

市内全小学校の1～6年生と全中学校の1年生を対象に、系統性をもたせた指導計画にしたがって、各学級年1回の授業と給食の訪問指導を行った。

【指導内容】

●小1「野菜と仲良くなろう」

野菜への関心を高め、野菜を食べようとする意欲をもたせる。

●小2「変身してできる食べ物を知ろう」

食材の原物を見せたり、その加工品を知らせたりすることで、食品に関心をもたせる。

●小3「バランスよく食べよう」

食品を3つのグループに分け、栄養のバランスに気をつけた食事が健康な体づくりにつながることを知らせる。

●小4「もっと大きくなあれ」(保健領域)

健康でよりよく成長するために必要な食事、運動、



休養・睡眠について考えさせ、自分のできることを見つけさせる。

●小5「野菜のパワーをさぐろう」

野菜の体に及ぼすよい影響を伝え、野菜が健康を保つために大切な食品であることを理解させ、積極的に食べようとする意欲をもたせる。

●小6「おやつについて考えよう」

糖分・塩分・脂肪分のとり過ぎが体にどのような影響を及ぼすのかを知らせ、体によいおやつのとり方について考えさせる。

●中1「中学生期の食生活を見直そう」

中学生期の成長の特徴を知らせ、自分に必要な栄養量をとるためにはどうしたらよいか、食生活の改善点を見つけさせる。

(2) ゲストティーチャー・チームティーチング

家庭科や保健の授業、総合的な学習の時間などにおいて、ゲストティーチャーとして参加したり、学級担任とともにチームティーチングを行ったりした。

学級担任と事前に打ち合わせを行うことで、栄養教諭ならではの専門的な知識を生かすことができた。また、糖度計や塩分計を活用するなど、食についての学習を深めることができた。



(3) 幼稚園・保育園と小学校との給食交流会

小学校入学に向けて子どもたちの不安を取り除くために、また、「小一プロブレム」と呼ばれる小学校への不適応を緩和するために、幼保小の連携が強く求められている。

市内の小学校では、近隣の幼稚園・保育園との交流に積極的に取り組んでおり、その一環として、給食交流会を実施している。

そのなかで、栄養教諭及び学校栄養職員は、小学校を訪問した園児に対して、当日の給食の献立を紹介するとともに、バランスよく食べることの大切さも伝えている。



(4) 食育講師

本年度は市内全小中学校に呼びかけ、PTA総会や学校保健委員会、就学時健診などの学校行事の中で、保護者の食育に対する意識向上を目指した啓発活動の機会を模索した。

その取り組みの一つとして、知多市小中学校PTA連絡協議会との連携で、PTA母親代表研修会「楽しい食育講座～栄養教諭とともに、健康朝食の調理をしよう～」を行った。

「バランスのよい朝食」をテーマに、食欲と栄養バランスに配慮した朝食に適した料理を作り、また、栄養教諭による食育講話を聞くなど、充実した内容となった。



(5) 保護者との個別相談活動

養護教諭と連携を図り、相談活動にも取り組んだ。食物アレルギーをもつ児童生徒の保護者と個別に面談をして、給食の取扱いについて相談活動を行ったり、肥満傾向にある児童生徒の保護者とも個別に面談をして、栄養指導を中心に相談活動を行ったりもした。

本事業における評価指標と考察

項目	朝食の摂食率「ほぼ毎日食べている」(%)		給食の残菜率(%)	
	市内中学生	市内小学生	市内中学生	市内小学生
平成23年度	94.4	98.0	0.9	1.6
平成24年度	94.3	97.1	0.7	1.3

知多市においては、早くから食育に取り組んできたので、本年度の取組の成果を数値で語ることは難しいが、上記の項目等について近年平均して高い数値となっていることから、指導や啓発が浸透していると考えられる。

本事業の成果

現在、栄養教諭・学校栄養職員は大規模調理場に3名配置されているが、本年度の取組によって学校からの協力が得られ、拠点校3校を中心に食育指導の機会を大幅に増やすことができた。今後は、学校との共通理解を図りながら、巡回校12校へも広めていきたい。

また、本年度整備した知多市学校食育推進会議を中心とする学校食育の指導体制は、栄養教諭を支援する組織として有効に機能しているため、今後も定期的に開催し、学校・家庭・地域の連携を図っていきたい。

知多市学校食育推進会議を設置したことにより、人と人とのつながりが生まれ、学校・家庭・地域の連携が生まれた。そして、家庭の食生活の改善に目を向けて日ごろより活動している地域団体から「地域食育サポーター」としての協力を得られたことにより、活動の幅を広げることができた。

今後の課題(今回の事業を実施した結果、新たに見えた課題)

学校教育において食育を推進するうえで、栄養教諭の存在は欠かせない。市内小中学校15校に対して栄養教諭及び学校栄養職員が合わせて3名という現状を踏まえ、各校において「食育推進者」の役割を明確にし、その立場を確立することで、学校での食育の推進はもちろん、食育の家庭への啓発をいっそう充実させていきたい。

また、現在、学校が中心となって実践している食育は、今後、児童生徒を取り巻く家庭へ、地域へと広げていく必要があると考えている。その際には、児童生徒に食事を提供している家庭の理解を得て共に活動していくことはもちろん、地域との連携も必要になってくると考えている。今後も「知多市学校食育推進会議」を核にして知多市の児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域の間に生まれたこのつながりを大切にして、今後の食育をより充実したものにしていきたい。